

令和3年度1学期始業式校長式辞（令和3年4月8日）

令和3年度をを迎えるに当たって、3年生と2年生の皆さんに2点お話をします。

1点目は、自分を高める原動力となる高い志（夢、目的、自分の人生の物語）についてです。

目の前のことに愚直に一生懸命努力することは大切ですが、その一方では、自分の努力や行為についての意味や理由を考えようとすることも避けて通るわけにはいきません。バランスが大切だと思います。

もちろん、高い志（夢、目的、自分の人生の物語）は、その時々で変わっていくものです。しかし、このことなしでは、自分を高めるための原動力が欠落することとなります。暫定的であっても考えておくべきものであり、実は本人が意識しているか否かにかかわらず、誰でも心の中に、自分自身の「羅針盤」をもっているのではないのでしょうか。

「いきものがかり」のメンバーであり、作詞作曲を担当されるとともに、エッセイストとしても活躍されている水野芳樹さんが、次のようなエピソードを紹介されています。

イベント会場で、涙を浮かべた方が、「人生でとてもつらいことがありましたが、いきものがかりの歌に救われました。素晴らしい曲をありがとう」と語りかけられた。このことばは、書き手にとって本当に嬉しいことばだった。しかし、自分は、「僕らの曲が素晴らしいのではなくあなたの過ごした日々が素晴らしかったのだと思います」とことばを返した。その方は、嬉しそうに笑顔でうなずいた。

水野さんは言います。たった数分の歌の中に書けることは、聞き

手がもつ人生の経験、物語より豊かであるはずがない。答えを出すことよりも、あなたの心の中の答えに触れることをいつも考えている。

ただし、ここは学校であり、教師がいる場所です。生徒の皆さんに、価値ある経験の場を設定したり、時には、敢えて北極星のような高い目標を提示したりすることもあります。なぜなら、水野さんのことばを借りると、教師としての歌が試されているから、歌がどれだけ深く触れることができるかが試されているからです。

2点目は、新型コロナウイルス感染症対策についてです。4月9日から、行動基準が、レベル2に引き上げられます。具体的な対策については、ホームルームで文書を配布します。その時々々の制限された条件の中で高校生としての当たり前活動を諦めないために、引き続き新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しましょう。もちろん、偏見や差別につながる行為は、インターネット上も含めて絶対にしてはなりません。

令和3年度、そしてこの1学期、皆さん一人ひとりが、一人ひとりのありようで、成長することを期待して、始業式の式辞とします。

(県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣)